

2022 年度 大阪市立大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは大阪市立大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、大阪回生病院皮膚科、大阪市立総合医療センター皮膚科、石切生喜病院皮膚科、育和会記念病院皮膚科、大阪鉄道病院皮膚科、南大阪病院皮膚科、市立柏原病院皮膚科、浅香山病院皮膚科、大阪府済生会富田林病院皮膚科、泉大津市立病院皮膚科、府中病院皮膚科、和泉市立総合医療センター皮膚科、大阪南医療センター皮膚科、大阪府済生会泉尾病院皮膚科、香芝生喜病院皮膚科、阪南中央病院皮膚科、近畿大学病院皮膚科、守口生野記念病院皮膚科を研修連携施設と、別紙に記載している施設を研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目 J を参照のこと)

C. 研修体制：

研修基幹施設：大阪市立大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：鶴田大輔（診療科長）

専門領域：自己免疫性水疱症，乾癬，創傷治癒

指導医：立石千晴 専門領域：自己免疫性水疱症，乾癬

指導医：中井浩三 専門領域：アレルギー・炎症性皮膚疾患

指導医：大霜智子 専門領域：アトピー性皮膚炎

指導医：今西久幹 専門領域：毛髪疾患

指導医：平田 央 専門領域：皮膚腫瘍

施設特徴：専門外来として、皮膚腫瘍外来，乾癬・生物学的治療外来，脱毛外来，白斑外来，皮膚アレルギー外来，アトピー外来を設けており，外来患者数は 1 日平均 100 名にのぼり，豊富な経験を

積むことが可能。また、年間手術件数は 300 名を超える。研究の面では、水疱症、脱毛症、色素異常症、光力学治療のグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：株式会社互惠会大阪回生病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市淀川区宮原 1-6-10

プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤敦子（部長）

研修連携施設：独立行政法人大阪市民病院機構

大阪市立総合医療センター皮膚科

所在地：大阪府大阪市都島区都島本通 2-13-22

プログラム連携施設担当者（指導医）：深井和吉（部長）

研修連携施設：医療法人藤井会石切生喜病院皮膚科

所在地：大阪府東大阪市弥生町 18-28

プログラム連携施設担当者（指導医）：山本紀美子（部長）

研修連携施設：医療法人育和会育和会記念病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市生野区巽北 3-20-29

プログラム連携施設担当者（指導医）：染田幸子（部長）

研修連携施設：西日本旅客鉄道株式会社大阪鉄道病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市阿倍野区松崎町 1-2-22

プログラム連携施設担当者（指導医）：遠藤英樹（部長）

研修連携施設：社会医療法人景岳会南大阪病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市住之江区東加賀屋 1-18-18

プログラム連携施設担当者（指導医）：清水奈美（部長）

研修連携施設：市立柏原病院皮膚科

所在地：大阪府柏原市法善寺 1-7-9

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉田康彦（部長）

研修連携施設：公益財団法人浅香山病院皮膚科

所在地：大阪府堺市堺区今池町 3-3-16

プログラム連携施設担当者（指導医）：住友理映子（医長）

研修連携施設：大阪府済生会富田林病院皮膚科

所在地：大阪府富田林市向陽台 1-3-36

プログラム連携施設担当者（指導医）：中川浩一（部長）

研修連携施設：泉大津市立病院皮膚科

所在地：大阪府泉大津市下条町 16-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：永尾 淳（部長）

研修連携施設：社会医療法人生長会府中病院皮膚科

所在地：大阪府和泉市肥子町 1-10-17

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉岡啓子（部長）

研修連携施設：医療法人徳洲会和泉市立総合医療センター皮膚科

所在地：大阪府和泉市和気町 4-5-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：岡林 綾（医長）

研修連携施設：国立病院機構大阪南医療センター皮膚科

所在地：大阪府河内長野市木戸東町 2-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：夏見亜希（医長）

研修連携施設：大阪府済生会泉尾病院皮膚科

所在地：大阪市大正区北村 3-4-5

プログラム連携施設担当者（指導医）：倉澤友輔（医長）

研修連携施設：医療法人藤井会 香芝生喜病院皮膚科

所在地：奈良県香芝市穴虫 3300-3

プログラム連携施設担当者（指導医）：加茂理英（部長）

研修連携施設：社会医療法人 阪南医療福祉センター阪南中央病院皮膚科

所在地：大阪府松原市南新町 3-3-28

プログラム連携施設担当者（指導医）：佐藤健二（部長）

研修連携施設：近畿大学病院皮膚科

所在地：大阪府大阪狭山市大野東 377-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：大塚篤司（診療科長）

研修連携施設：社会医療法人 弘道会 守口生野記念病院

所在地：大阪府守口市佐太中町 6-17-33

プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤晴久（部長）

研修準連携施設：医療法人錦秀会阪和病院皮膚科

所在地：大阪府大阪市住吉区南住吉 3-3-7

研修準連携施設：医療法人徳洲会八尾徳洲会総合病院皮膚科

所在地：大阪府八尾市若草町 1-17

研修準連携施設：医療法人生登会寺元記念病院皮膚科

所在地：大阪府河内長野市古野町 4-11

研修準連携施設：大阪府済生会吹田病院皮膚科

所在地：大阪府吹田市川園町 1-2

研修準連携施設：医療法人藤井会大東中央病院皮膚科

所在地：大東市大野 2-1-11

研修連携施設：社会医療法人ペガサス馬場記念病院皮膚科

所在地：大阪市堺市西区浜寺船尾町東 4 丁 244

研修連携施設：社会医療法人弘道会なにわ生野病院皮膚科

所在地：大阪市浪速区大国 1 丁目 1 0-3

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員

- 委員長：鶴田大輔（大阪市立大学病院皮膚科長）
- 委員：中井浩三（大阪市立大学病院皮膚科准教授）
- ：中川浩一（大阪府済生会富田林病院皮膚科部長）
- ：深井和吉（大阪市立総合医療センター皮膚科部長）
- ：山本紀美子（石切生喜病院皮膚科部長）
- ：永尾 淳（泉大津市立病院皮膚科部長）
- ：森本ひとみ（大阪市立大学皮膚科病棟看護師長）
- ：堤本千恵子（大阪市立大学病院皮膚科外来看護主任）
- ：加藤敦子（大阪回生病院皮膚科部長）
- ：染田幸子（育和会記念病院皮膚科部長）
- ：遠藤英樹（大阪鉄道病院皮膚科部長）
- ：清水奈美（南大阪病院皮膚科部長）
- ：吉田康彦（市立柏原病院皮膚科部長）
- ：住友理映子（浅香山病院皮膚科医長）
- ：吉岡啓子（府中病院皮膚科部長）
- ：岡林 綾（和泉市立総合医療センター皮膚科医長）
- ：夏見亜希（大阪南医療センター皮膚科医長）
- ：倉澤友輔（大阪府済生会泉尾病院皮膚科医長）
- ：加茂理英（香芝生喜病院皮膚科部長）
- ：佐藤健二（阪南中央病院皮膚科部長）
- ：大塚篤司（近畿大学病院皮膚科診療科長）
- ：加藤晴久（守口生野記念病院皮膚科部長）

前年度診療実績：

	皮膚科		局所麻酔 年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年 間手術数	指導医数
	1日平均外 来患者数	1日平均入 院患者数			
大阪市立大学	77.9人	14.6人	888件	28件	6人
大阪回生病院	67.5人	11.2人	247件	0件	1人
市立総合医療センター	32.4人	5.4人	666件	23件	4人
石切生喜病院	65.3人	2.5人	218件	0件	1人
育和会記念病院	21.8人	2.9人	98件	1件	1人
大阪鉄道病院	41.0人	2.0人	107件	0件	1人
南大阪病院	29.0人	1.0人	86件	0件	1人
市立柏原病院	33.4人	1.0人	87件	0件	1人

浅香山病院	39.5 人	2.9 人	113 件	2 件	1 人
済生会富田林病院	62.9 人	9.1 人	725 件	41 件	1 人
泉大津市立病院	34.5 人	0.5 人	72 件	0 件	1 人
府中病院	32.7 人	2.5 人	75 件	0 件	1 人
和泉市立総合医療センター	63.5 人	6.3 人	417 件	4 件	1 人
大阪南医療センター	20.8 人	2.1 人	196 件	0 件	1 人
済生会泉尾病院	36.8 人	1.2 人	73 件	0 件	2 人
香芝生喜病院	26 人	4.4 人	45 件	1 件	1 人
阪南中央病院	31.0 人	22.5 人	26 件	0 件	1 人
近畿大学病院	119 人	25 人	1400 人	37 件	4 人
守口生野記念病院	20 人	1 人	36 件	0 件	1 人
合計	855 人	118.1 人	5575 件	137 件	31 人

D. 募集定員：10 人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査，小論文および面接により決定（大阪市立大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また，選考結果は，本人あてに別途通知する。なお，応募方法については，応募申請書を大阪市立大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし，履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は，研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ，プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後，同年 4 月 30 日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

大阪市立大学医学部附属病院皮膚科

今西久幹

TEL：06-6645-3826

FAX：06-6645-3828

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには，いくつかの項目において，到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュ

ラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い，研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 大阪市立大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後，難治性疾患，稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え，教育・研究などの総合力を培う。また，少なくとも1年間の研修を行う。
2. 大阪回生病院皮膚科，大阪市立総合医療センター皮膚科，石切生喜病院皮膚科，育和会記念病院皮膚科，大阪鉄道病院皮膚科，南大阪病院皮膚科，市立柏原病院皮膚科，浅香山病院皮膚科，大阪府済生会富田林病院皮膚科，泉大津市立病院皮膚科，府中病院皮膚科，和泉市立総合医療センター皮膚科，大阪南医療センター皮膚科，大阪府済生会泉尾病院皮膚科，香芝生喜病院皮膚科，阪南中央病院皮膚科，近畿大学病院皮膚科，守口生野記念病院皮膚科では，急性期疾患，頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い，地域医療の実践，病診連携を習得し，大阪市立大学医学部皮膚科の研修を補完する。
3. 準連携施設である阪和病院皮膚科，八尾徳州会総合病院皮膚科，寺元記念病院皮膚科，大阪府済生会吹田病院皮膚科，大東中央病院皮膚科，馬場記念病院皮膚科，なにわ生野病院皮膚科では指導医不在の一人医長として研修を行う可能性がある。一人医長として研修する専攻医は，大阪市立大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り，診療の相談，カンファレンスへの参加を随時行う。
4. 連携研修施設または，指導医不在の一人医長として研修を行う準連携施設のいずれかで，原則として少なくとも1年間おこなう。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは，以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし，研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また，記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。また，連携施設では地域医療経験のため3ヶ月以上の研修を行うこととする。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携
b	連携	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携
c	連携	大学院	大学院	大学院	大学院
d	基幹・連携	基幹・連携	大学院	大学院	大学院
e	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携	大学院	大学院
f	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携	基幹・連携	大学院
g	大学院	大学院	大学院	大学院	連携

- a：研修基幹施設を最初に研修する基本的なコース。2年目以降は基幹もしくは連携施設で研修を行う。ただちに皮膚科専門医として活躍できるように臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- b：連携施設を最初に研修する基本的なコース。ただちに皮膚科専門医として活躍できるように臨床医としての研修に重点をおいたコース。
- c：研修2年目に大学院に入学し、専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。
- d：研修3年目に大学院に入学し、専門医取得後に博士号取得を目指すコース。
- e：研修4年目に大学院に入学し、専門医取得後に博士号取得を目指すコース。
- f：研修5年目に大学院に入学し、専門医取得後に博士号取得を目指すコース。
- g：まず博士号取得を目指すコース。臨床研修も行ない、カリキュラム修了を目指す。

2. 研修方法

1) 大阪市立大学医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンス、ダーモスコピーカンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。定期的に診断病理部とのカンファレンスを行う。月1回のアレルギー症例検討会でプレゼンテーションを行う。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全

講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 手術 パッチテスト	回診 病理 カンファレンス	病棟 プリックテスト	病棟 手術	病棟		

2) 連携施設

大阪回生病院皮膚科：指導医の下，地域医療を支える勤務医として，皮膚科一般外来診療，入院患者治療及び各種処置，一般的手術法を習得する。特にパッチテスト，プリックテスト，チャレンジテストなどの皮膚アレルギーの検査を積極的に行っており，その手技及び結果説明法を十分に習得する。毎朝外来開始前に全員で病棟回診を行い，入院患者の状態を確認し治療を検討する。月1回木曜日には病理カンファレンスに参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講する。年に2回筆頭演者として学会発表を行い論文を執筆する。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来 病棟	
午後	外来 病棟	褥瘡回診 検査 病棟	外来 病棟	手術 病棟 カンファレンス	外来 病棟		

大阪市立総合医療センター皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回程度，筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟	病棟 病理カンファ レンス	病棟 カンファレンス	病棟 手術	オンコール※	

※オンコールは 4□ / □ を□□

石切生喜病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として一般的な皮膚疾患はもちろん，重症薬疹や水疱症の入院治療や乾癬に対する生物学的製剤による治療法など習得する。また創傷処置法，手術法についても研修する。大阪市大医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	外来	外来	病棟	研修日	
午後	褥瘡回診	手術 パッチテスト	病理検討	病棟	症例検討 会		
夜診	外来						

□直はなし，□□□□□□び□□□は□□□□もありえます。

育和会記念病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急，医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来 病棟	(研修日)	外来 病棟	
午後	病棟 検査	病棟、検査、褥瘡 回診、 カンファレンス (大学)	病棟 検査 (手術)	病棟 検査	(研修日)		

※□ 直はなし

大阪鉄道病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来 褥瘡回診	手術	病棟 外来	病棟 外来		

南大阪病院皮膚科：指導医のもと，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の急性期医療，処置，手術などを習得するとともに，リハビリ病棟・地域包括ケア病棟での回復期医療にも携わる。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日

午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 手術	病棟 カンファレンス	病棟 褥瘡回診	病棟 回診 カンファレンス	病棟	病棟	

市立柏原病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の皮膚科診療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学主催の講演会，セミナー等に積極的に参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	外来	外来		
午後	外来 パッチテスト 病棟	手術 カンファレンス 病棟	手術 カンファレンス 病棟	褥瘡回診 フットケア外来 病棟	外来 フットケア外来 病棟		

宿直は無し。

浅香山病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 検査	外来	外来	外来	外来	

午後	手術	外来 病棟 回診	手術 カンファレンス	外来 検査	褥瘡回診 カンファレンス		
----	----	----------------	---------------	----------	-----------------	--	--

大阪府済生会富田林病院皮膚科: 当院の指導医は日本でも 79 人しかいない皮膚悪性腫瘍指導専門医であり, 症例数も多いためここで研修した研修医は 1-2 年で一般的な皮膚外科手術の執刀医として十分な実力を身に着けることができる。手術以外でも皮膚科領域のほぼすべての分野について研修が行える。外科当直にも入ってもらい、皮膚科領域のみならず一般的な救急医療を学ぶこともできる。大学との連携も密に取っており, 週に一回は大学の研修医向けのカンファレンスに参加してもらう。皮膚科学会主催の 必須の講習会を受講し、大阪地方会や地域の研究会で年に 4 回以上筆頭演者として発表を行い, これらの発表内容を論文にしてもらう。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 検査	外来	外来 手術	手術		
午後	病棟 手術	病棟 外来カンファ レンス	病棟 病理カンファ レンス	病棟	病棟 手術	宿直 *	

※宿直は 2 回 / 月を予定

泉大津市立病院皮膚科: 指導医の下, 地域医療の中核病院の勤務医として, 第一線の救急医療, 処置, 手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス, 抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し, 年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会, 学術講演会, セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 回診カンファ レンス		
----	----------	----------	----------	----------	---------------------	--	--

府中病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 外来	病棟 手術	病棟	病棟	病棟 大学カンファ レンス		

和泉市立総合医療センター：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する褥瘡委員会，医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	外来	外来	外来	外来	病棟	
午後	外来 病棟	病棟 褥瘡回診	病棟 処置	病棟 処置	病棟 カンファレンス		

※病棟は適宜

国立病院機構大阪南医療センター病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	手術	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	手術	病棟	病棟		

大阪府済生会泉尾病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	手術 外来	外来	外来 病棟	
午後	病棟	病棟 カンファレンス	病棟	手術 病棟	病棟		

香芝生喜病院皮膚科：指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟 外来	病棟	病棟 外来	病棟	病棟 回診 カンファレンス		

阪南中央病院皮膚科：指導医の下、皮膚科疾患の診察、検査、治療や処置、皮膚小外科手術、基礎的な皮膚病理組織学を習得する。地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療を担う。当院の特徴はステロイドを使わない治療を希望するアトピー性皮膚炎患者が多いことで、多くの入院患者を受け持ち、彼らの要望に沿った治療方法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンスに週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の講習会を受講し、年に 1 回以上筆頭演者として学会発表を行い、筆頭著者として論文を年に 1 篇発表する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーなどに積極的に参加する。病院が実施する医療安全、感染対策、医療倫理の講習会に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	病棟 病棟回診	外来	病棟	外来	手術
午後	病棟 看護師との 入院患者カン ファレンス	病棟	病棟 看護師との 入院患者カン ファレンス 医局会と勉 強会と症例 検討会	病棟	病棟 褥瘡回診と 重症患者回 診

当院では 2 年目以降、一人で外来診察を行うことを基本とする。

近畿大学病院皮膚科：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟

回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	回診 外来	外来	外来 手術		
午後	病棟	病棟 病理	病棟 病理 カンファレンス	病棟	病棟		

守口生野記念病院皮膚科：指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急 医療，処置，手術法を習得する。大阪市立大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全・感染対策講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	外来 病棟	病棟 病棟 回診	病棟 外来 カンファレンス	病棟 手術	病棟		

5) 研修準連携施設

阪和病院皮膚科，八尾徳州会総合病院皮膚科，寺元記念病院皮膚科，大阪府済生会吹田病院皮膚科，大東中央病院皮膚科、馬場記念病院皮膚科、なにわ

生野病院皮膚科では現在指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間に限り、1人での診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の指導医のいる研修連携施設に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う （開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 2年目：主に大阪市立大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
- 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
- 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。
3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、

生涯学習する方策，習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり，その成果を国内外の学会で発表し，論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり，研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎 年 度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMed などの検索や日本皮膚科学会が提供する E-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論，皮膚科的検査法，理学療法，手術療法），講習会受講記録（医療安全，感染対策，医療倫理，専門医共通講習，日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会，専攻医選択講習会），学術業績記録（学会発表記録，論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医，指導医，総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後，評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を，日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし，確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと，知識の習熟度，技能の修得度，患者さんや同僚，他職種への態度，学術活動などの診療外活動，倫理社会的事項の理解度などにより，研修状況を総合的に評価され，「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」の A. 形成的評価票に自己評価を記入し，毎年 3 月末までに指導医の評価を受ける。また，経験記録は適時，指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価，指導医に対する評価，研修施設に対する評価，研修プログラムに対する評価を記載し，指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラ

ム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。

3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート 15 例、手術症例レポート 10 例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断，異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね 2～3 回/月程度である。

2021年5月1日
大阪市立大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
鶴田 大輔